



ヒューマンコミュニケーショングループ
Human Communication Group

ニュースレター

2003 年度 No.2

URL: <http://www.ieice.org/hcg/jpn/>

Contents

- ・ HCG ロゴ募集の結果報告
- ・ 2003 年 FIT 大会特別企画報告
- ・ 研究会活動報告 (HCS, HIP, KCI)
- ・ 研究会・関連行事カレンダー

ヒューマンコミュニケーション グループ ロゴ募集の結果報告

企画幹事 相澤清晴 (東京大学)

ヒューマンコミュニケーショングループでは、グループのアイデンティティを高めるためのロゴの募集を行いました。グループの特徴として、「ヒューマンコミュニケーション」、「分野横断」、「まだ小さくこれから育つ」などをイメージできるような作品を求めました。募集に対して、全部で 10 作品の応募があり、最終的には投票の結果、上記のニュースレタータイトルに記載の作品に決定いたしました。作者は、杉山浩氏 (静岡市、公務員) です。

作者コメント:

頭文字の「H」の文字をデザイン化しました。2 人の人をあわらし人と人がつながって対話をしているデザインになっています。

杉山さんには、記念品の盾が贈られます。今後、様々な機会にこのロゴが皆様のお目にかかると幸いです。

2003 年 FIT 大会特別企画報告

平成 15 年度企画幹事
前田太郎 (NTT)

「FIT2003 : (Forum on Information Technology) 情報科学技術フォーラム」が、昨年 9 月 10 日から 12 日の 3 日間、札幌学院大学キャンパスで開催されました。日本国内における情報系の 2 つの大きな学会である電子情報通信学会の情報・システムソサエティ (ISS) と情報処理学会 (IPSJ) の主催による同フォーラムも第 2 回目となり、従来の全国大会などの形式にとらわれずに新しい発表形式を導入し、タイムリーな情報発信、議論・討論の活性化、他領域研究者との交流などを目的として実施されました。地方での開催とはいえ新札幌というアクセスの良さもあって 1144 件の発表と 1969 人の来場者、並列セッション数は 30 室という盛況ぶりでした。

ヒューマンコミュニケーショングループ (HCG) も今回からは FIT の主催組織の一つとして名を連ね、共同開催の主旨にそって、1 つのイベント企画講演会と 1 つの発表分野をプロデュースしました。イベント企画は福祉情報工学研究会 (WIT) 主導での「こんなものが欲しい、福祉情報システム」、HCG の 4 研究会と ISS の教育工学研究会 (ET)、情報処理学会のヒューマンインターフェイス研究会 (HI) でプログラムを構成した発表分野は「ヒューマンコミュニケーション&インタラクション」でした。

企画講演である「こんなものが欲しい、福祉情報システム」は、障害者の立場から直接に『欲しいシステム』に対する生の意見が語られる迫力あるものとなりました。聴覚障害の立場からは井上正之氏 (NTT)、視覚障害の立場からは長岡英司氏 (筑波技術短期大学)、全盲ろう者の立場から福島智氏 (東京大学) と、それに続くパネル討論では先の 3 方に加えて司会の市川熹氏 (千葉大)、パネリストの安藤彰男氏 (NHK 技研)、中山剛氏 (国立身体障害者リハビリテーションセンター研究所)、渡辺哲也氏 (国立特殊教育総合研) を交えて IT をめぐる開発・普及・利用に関する提言としてそれぞれの立場から多岐にわたり迫力のある講演となりました。講演の進行自体も、各々の障害をお持ちの講演者の方々にパネル討論に参加頂くためのノウハウを持つ WIT 主導ならではの同講演の実現であり、参加者にとっても大変貴重な体験となりました。

また、「ヒューマンコミュニケーション&インタラクション」では発表分野全体で発表件数 141 件、そのうち査読済み論文件数が 19 件と盛況な発表分野となりました。ただ、査読済み論文の発表と一般講演が混在しての発表であったこと、並行セッション数が 30 室という分散ぶりであったことから、部屋ごとの聴講者・討論者数に偏りが見られ、時として場の盛り上がり欠けるセッションの展開が見られたことは否めませんでした。こうした問題は単に各セッション単体としての問題ばかりではなく、まだ 2 回目である同フォーラム全体の課題として一般講演の講演形式のあり方を含めた全体構成を再検討していく必要性が感じられる問題でもありました。筆者の私見ではありますが、全てを口頭発表としたことで生じている超並列セッション

化による弊害を避けつつ論文査読の結果を生かすためにも、一般講演の一部をポスター発表形式にするなどの工夫が求められるのではないかとこの印象をもちました。

研究会の活動報告

ヒューマンコミュニケーショングループ(HCG)では、4つの第一種研究会と1つの第二種研究会、1つの第三種研究会が研究活動を進めています。本号では、これらの中から、2つの第一種研究会と第二種研究会の活動状況を紹介します。

研究会の活動報告 ①

ヒューマンコミュニケーション 基礎研究会(HCS)活動報告

委員長 森島繁生(成蹊大学)

本年から、ヒューマンコミュニケーション基礎研究会は、成蹊大学の森島繁生が委員長を務めさせて頂いております。幹事メンバーも早稲田大学の青木義満先生、静岡大学の竹内勇剛先生にお願いし、スタッフの若返りを図りました。また研究専門委員に関しましても、さらなるアクティビティの確保を目指して大幅なメンバーの入れ替えを行いました。

今年度すでに4回の研究会が終了しております。まず4月25日は早稲田大学理工学部を会場に「ロボットコミュニケーション及び一般」というテーマで第1回研究会を実施しました。幹事の青木義満先生にローカル担当をお願いし、早稲田大学の小林哲則先生の招待講演を含め5件の発表があり、活発な議論が行われました。また会議後は、早稲田大学ヒューマノイド研究所の見学会が行われ大勢の方に参加いただきました。第2回は大阪工業大学情報科学部を会場に「コミュニケーションの心理・生理および一般」というテーマで、6月13日に実施いたしました。ローカル担当は幹事補佐の大須賀美恵子先生にお願いし、8件の発表がございました。また会議終了後には、VR装置やモーションキャプチャシステムの見学会が行われ、さらに大学内にて懇親会を実施し、参加者同士の親睦を深めました。第3回は9月27日、28日の両日、国立科学博物館新宿分館を会場に、第8回日本顔学会大会のHCSセッションとして開催されました。HCSセッションの発表は、「顔とコミュニケーション」をテーマに6件の発表がありました。実際には、大会の参加者238名に発表

を聞いて頂くことができ、またHCSとして顔学会大会運営に大きく貢献したことは言うまでもありません。企画展示という形で、「体験3次元スキャナ」のコーナーを設け、3社から出展を頂きました。また、特別講演では、スタジオジブリから百瀬義行氏をお迎えし、「アニメーションキャラクタに命を吹き込む奥義」というタイトルで、またオー・エル・エム・デジタルの安生健一氏に「デジタルアニメーションの作り方と使い方、そして将来」というタイトルで、お話を頂きました。11月7日には、大阪大学人間科学部を会場として、社会・心理学、福祉関連の発表が11件ございました。ローカル担当は、専門委員で大阪大学の大坊都夫先生にお願いしました。

さて、1月22日、23日に予定されております第5回は、新しいテーマ開拓を目的として「自動車・交通におけるコミュニケーション&インタフェース」を企画しております。これは、ヒューマン情報処理研究会(HIP)、福祉情報工学研究会(WIT)およびヒューマンインタフェース学会研究会とのジョイントで実施されるもので、今年度から発足するものです。世話役は、幹事の竹内勇剛先生にお願いし、27件の発表を予定しております。会場は名古屋の産業技術記念館で行われます。そして、最後の第6回は東京工業大学でHCG大会として実施されます。

HCS研究会の目的は、新しい研究分野の創生であると理解しております。そういう意味で、個々の研究発表会のテーマ自体がひとつの分野として独立し、第1種研究会に成長するようなくみ理想的と考えております。今後も新しい取り組みに励む所存ですので、ご支援を賜りたく存じます。

研究会の活動報告 ②

ヒューマン情報処理研究会 (HIP)活動報告

委員長 行場次朗(東北大学)

本研究会では、人間の内部で行われる情報処理と、人と人とのインタラクション、人と環境とのインタラクションでなされる情報処理にかかわる問題を幅広く取り上げております。そして、情報通信にかかわる研究者にとどまらず、心理学や脳科学、認知科学など多彩な分野の研究者が毎回、熱心に研究発表と討論を展開しています。具体的なテーマは、○生体信号処理(ヒューマン機能の計測と解析、生体発現信号の処理、生体運動の理解と生成)、○感覚・知覚情報処理(ヒューマンビジョン、聴覚情報処理、視

聴覚相互作用、マルチモーダル情報処理)、○ヒューマンインタフェース(マンマシンインタフェース、マルチメディアインタフェース)、○感性と認知(感性情報処理、実空間の知覚と認知、画像と音響の評価技術)などが主に議論されています。これらのテーマを見ていただければおわかりのとおり。本研究会は、学際的(interdisciplinary)というより、通領域的(transdisciplinary)な観点から人間の情報処理をできるだけ見通しよく捉えるアプローチを推進していることに特色をもっているといえます。現在、約 30 名の方に研究専門委員をお願いしておりますが、その所属を見るとまさに文系・理系融合型で、私自身も文学研究科心理学講座に在籍していますが、研究会では、文理や既存の学問領域の境界を意識されている方はむしろ非常に少ないように思えます。

全国各地で行われる年 6 回の研究会に加えて、FIT や総合大会をあわせると、今年は 130 件以上の発表がありました。このため、今年、新設されたヒューマンコミュニケーショングループ賞を本研究会からは 2 件推薦できることになりました。

研究会では、毎回、議論を集中させるために特別テーマを設定していますが、最近のものを紹介しますと、「空間に広がるインタフェース」「視覚情報処理技術」「エンタテインメントとヒューマン情報処理」「コミュニケーション支援」「ノンバーバルコミュニケーションにおけるヒューマン情報処理とメディア理解」「顔とジェスチャーの認識」「感性情報処理の基礎と応用」「自動車・交通におけるコミュニケーション&インタフェース」などがあります。研究者間の交流や問題意識をさらに大きく広めるため、HCS、WIT、MVE、PRMU の各研究会をはじめ、HI 学会、地理情報システム学会空間 IT 分科会、VR 学会エンタテインメント VR 研究会、東北大電通研音響工学研究会、映像情報メディア学会ヒューマンインフォメーション研究会などの御協力を得て、積極的に共催活動を行ってまいりました。それらの特別テーマの中には今後とも継続して展開するものもありますので、本研究会のホームページ(<http://www.ieice.org/~hip/>)をご覧ください。もちろん「ヒューマン情報処理一般」の研究発表も毎回、受け付けております。

また、2004 年 1 月には、本研究会が中心になって企画した「空間情報認知特性の基礎と応用」の特集号(和文論文誌 A)が発刊されます。ここでは、地理情報を実際にサービスとして提供する開発者や、認知地図などの空間認知を専門とする認知心理学の研究者、位置検出やナビゲーションシステムの研究者と開発者らが、分野

の壁を乗り越えて行った研究成果がまとめられております。

皆様には、今後とも、こうした本研究会の活動を積極的にサポートしていただけますようお願い申し上げます。

研究会の活動報告 ③

インタラクションによる知識の創生研究会(KCI)活動報告

委員長 橋本秀紀(東京大学)

本研究会は、「インタラクションによる知識の創生」について、工学・社会科学を融合した学際的観点から議論を深めることを目的として 2001 年度末に第 2 種研究会として設立され、今年度末の活動終了までの約 2 年間に渡って活動してきました。

「インタラクション」あるいは「相互作用」というキーワードは、ロボティクスやヒューマンインタフェースといった工学分野でその重要性が改めて認識されていますが、環境問題や情報ネットワークを前提とした社会のあり方などを議論する際にも必要不可欠な視点となっています。従って、技術を提供する工学系と、それを前提とする社会科学系の間で議論を交わし、コンセンサスを得ることが重要となります。

この様な考え方の元に、第 2 種研究会として 7 回の研究会を行い、研究会の趣旨に沿った活発な議論と多くの貴重な知見を得ることができました。

2002 年度に 4 回、2003 年度に 3 回の研究会を行い、工学系分野からの研究発表を中心とした研究会だけでなく、社会科学系研究者を招き、少人数によるディスカッション、インターネットにより接続された分散インテリジェントスペースにおける議論など、多様な形態の研究会を通じて議論を深めてきました。

また、2003 年 3 月 18、19 日に東北大学で開催された HCG 大会においては、「社会科学から見た相互作用と賢さ」というタイトルで特別講演を企画するなど、活動期間は短期間ですが HCG グループの一員として有意義な活動を行うことができました。

情報のアクセスが容易になった今、インタラクションによる知識の創生は真に望まれるものであり、社会科学系との連携によって始めて可能となります。

本研究会はその方向を目指し社会科学系の研究者とインタラクティブに議論を進めてきました。ここでの知見が新たな連携に活力を与えるものと期待できます。

ヒューマンコミュニケーショングループ研究会・関連行事カレンダー

詳しくは、HCG ホームページ <http://www.ieice.org/hcg/jpn/> をご覧ください。

ヒューマンコミュニケーション グループ (HCG) シンポジウム 開催案内

ヒューマンコミュニケーショングループでは、恒例となりましたグループ大会 (今回より HCG シンポジウムと改称) を開催致します。シンポジウムでは、HCG 傘下の 4 研究会に加え、「会話情報学：会話を中心とする新しいインタラクション・コンテンツ融合技術の展開」の HCG シンポジウム、特別講演として「情報機器アクセシビリティ関連 JIS の最新動向とその影響を探る」を企画しています。東工大での本会総合大会に半分重なるように時期を設定し、会場も総合大会と同一の東工大内に設けています。総合大会での発表と併せ、さらに研究会でより深い発表をされるには絶好の機会となっています。奮ってご参加よろしくお願ひします。

【期日】

2004 年 3 月 25 日 (木) 9:00~18:30

2004 年 3 月 26 日 (金) 9:00~18:30

※ 総合大会は 22 日~25 日です。

【会場】

東京工業大学 大岡山キャンパス 西 8 9 号館

【HCG 特別企画】(3 月 26 日)

— 「会話情報学：会話を中心とする新しいインタラクション・コンテンツ融合技術の展開」

コーディネータ 西田豊明 (東大)

— 特別講演

「情報機器アクセシビリティ関連 JIS の最新動向とその影響を探る」

HCG 主催・共催会議 開催案内

— 2004 年 2 月 —

★マルチメディア・仮想環境基礎(MVE)研究会

【期日】2004 年 2 月 19 日 (木) ~20 日 (金)

【会場】群馬大学 (桐生市)

【題目】VR、ヒューマンファクター、一般

【共催】CQ 研究会

— 2004 年 4 月 —

★ACM Conference on Human Factors in Computing Systems (CHI 2004)

【URL】<http://sigchi.org/chi2004/>

【期日】2004 年 4 月 24 日 (土) ~29 日 (木)

【会場】ウィーン、オーストリア

【備考】HCG と共催

— 2004 年 5 月 —

★福祉情報工学(WIT)研究会

【期日】2004 年 5 月 (予定)

【会場】東海地区 (予定)

【題目】福祉とパターン認識・メディア理解・医用画像処理/一般 (予定)

【共催】PRMU 研究会, MI 研究会

— 2004 年 7 月 —

★福祉情報工学(WIT)研究会

【期日】2004 年 7 月 (予定)

【会場】未定

【題目】福祉と言語処理/一般 (予定)

【共催】NLC 研究会

— 2004 年 9 月 —

★FIT 2004

【期日】2004 年 9 月 7 日 (火) ~9 日 (木)

【会場】同志社大学

— 2004 年 10 月 —

★福祉情報工学(WIT)研究会

【期日】2004 年 10 月 28 日 (木) ~29 日 (金) (予定)

【会場】工学院大学 (予定)

【題目】福祉と音声処理

【共催】SP 研究会

— 2004 年 11 月 —

★2nd International Conference on Cyberworlds (Cyberworlds 2004)

【URL】<http://cw2004.myvnc.com/>

【期日】2004 年 11 月 18 日 (木) ~20 日 (土)

【会場】東京工業大学

【備考】HCG は特別セッションを企画

★Pacific Rim Conference on Multimedia (PCM 2004)

【URL】<http://www.pcm2004.org/>

【期日】2004 年 11 月 30 日 (火) ~12 月 3 日 (金)

【会場】東京国際交流館 (お台場)

【問合せ先】相澤清晴 (東京大学)

aizawa@k.u-tokyo.ac.jp